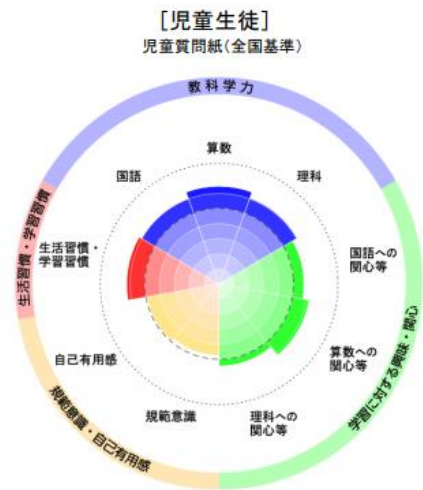


# 自主的学習力の育成

4月19日に6年生が実施した全国学力状況調査の結果が出ました。教科学力や生活習慣・学習習慣が全校平均よりも上回る結果となりました。調査結果を基に、6年生だけでなく学校全体としても、子どもたちの学びがより良いものになっていくよう今後の教育活動に生かしていきます。



調査結果 平均正答率 横浜市立白幡小学校

	国	算	理
白幡	73%	74%	72%
神奈川	65%	64%	63%
全国	65.6%	63.2%	63.3%

※平均正答率とは、一人ひとりの児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。点数の結果とは異なります。

学力については全ての教科で「知識・技能」、「思考・判断・表現」の項目が全国基準と比べて10%程度上回る結果となりました。また、学習に対する興味・関心、生活習慣・学習習慣も平均を上回る結果となりました。普段の学習の中で、学ぶことのよさを実感している姿勢が、学習意欲の高さに起因していると考えられます。引き続き、教科指導を通して学習態度を育成していきます。

一方で、規範意識や自己有用感が全国平均を下回る結果となりました。このことから、各教科や白幡の時間を通して異学年と交流し、人との関わりを増やせる機会を作っていきます。また、自分でめあてを立てて学習し、学習後、そのめあてに対して振り返る指導を続けることで、自分の成長を実感できる機会を設けます。普段の学級活動や行事など責任感を養う場面を通して、責任をもつ機会を増やし、日頃の学習場面で達成感を味わえるように支援していきます。

## 国語

学習指導要領の領域「B 書くこと」「C 読むこと」では、全国平均よりも10ポイント程度高い結果となりました。5年生までの学習を通して、自分の考えを理論立てて書き表す習慣が身に付いていることと、文章の叙述に即して読み取る経験を重ねてきた結果だと考えられます。

一方で、推敲することに課題が見られます。推敲のポイントを確認し、今後の作文指導に生かしたいと思います。

## 算数

学習指導要領の領域Cの「変化と関係」が全国平均よりも10ポイント程度高い結果となりました。この結果となった要因は、数直線や線分図を活用して数量関係を整理するようにしてきたことが挙げられます。

一方で問題場면을解釈し、除法で求めることに課題があります。示された場면을解釈して数の処理の仕方を理解できるように、指導を続けていきます。

## 理科

学習指導要領のどの領域も全国平均よりも10ポイント程度高い結果となりました。その要因は理科における課題解決の流れを子どもたち自身が自覚しながら学んでいるからだと考えられます。

正答率が全国平均を下回る問題はありませんでした。実験器具の扱い方の問題が比較的低い結果だったので、今後正しい実験の手順をより一層指導していきます。